

【奥の細道】

【】(弥生も末の七日)

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

弥生も末の七日、明けぼの空朧々として、月は在明にて光をさまれる物から、不二の峰幽にみえて、上野谷中の花の梢又いつかはと心ぼそし。むつまじきかぎりは宵より じとひて、舟に乗て送る。千じゅと云所にて舟をあがれば、前途三千里のおもひ胸にふさがりて、幻のちまたに離別の泪をそそぐ。

行春や鳥啼魚の目は泪

是を矢立の初として、行道 なほすすまず。人々は途中に立ならびて、後かげのみゆる迄はと見送へおくる《なるべし》。

(奥の細道)

問一 「じとひて」「なほ」を、現代仮名遣いに直しなさい。

問二 「舟に乗て送る」の主語を、原文中の言葉で書け。

(長野県)

【解答】

問一 じとひて なお

問二 むつまじきかぎりは